



準天頂衛星システム

平成19年度概算要求額 : 4,435百万円
(平成18年度予算額) : 2,350百万円
※運営費交付金中の推計額を含む

日本付近で常に天頂方向に1機の衛星が見えるように複数の衛星を準天頂軌道に配置した衛星システムにより、山間地、ビル陰等に影響されず、全国をほぼ100%カバーする高精度の測位サービスの提供を実現



準天頂衛星システム計画の推進体制と計画(案)

国の技術開発

- H15 研究開始
- H16~ 開発研究
- H18~ 開発(予定)
- 【宇宙開発委員会】
 - ・H18.8 開発移行の審査 (目標・目的・方針・体制)
 - ・H18.10 具体的開発計画の審査

第1段階(技術実証・利用実証)

- H21 初号機打上げ(目標)
- H22~ 評価

第2段階(システム実証)

- H27~ 官民の協力により追加2機の準天頂衛星を打上げ

測位・地理情報システム等推進会議(平成17年9月 内閣に設置)

文部科学省 高精度測位実験システム	総務省 高精度衛星測位技術	経済産業省 衛星の軽量化・長寿命化技術 推進系機器の高度化技術	国土交通省 高精度測位の補正技術 移動体に対する高精度測位技術
-----------------------------	-------------------------	--	--

「準天頂衛星システム計画の推進に係る基本方針」(平成18年3月31日 測位・地理情報システム等推進会議)

第1段階 文部科学省取りまとめ



第2段階 国は、技術実証・利用実証の結果を評価した上で、民間と協力してシステム実証段階(追加2機)に移行
民間は、事業化判断を行い、事業内容、事業規模等に相応な資金を負担することで計画に参加

関係機関による連携・適切な分担
準天頂衛星システム開発・利用推進協議会
(関係省庁、関係研究開発機関、民間代表)

システムの成果

- ◎離島・山間部を含め、広く日本全体を対象とした測位サービスの提供
- ◎GPSの情報を補完・補強*することによる高精度測位を実現

*補完(測位補完): GPS互換信号を送信し、GPSとの組み合わせによって、利用可能エリアの拡大や利用可能時間を増加させること。
*補強(測位補強): 基準点で受信したGPS信号の誤差情報やGPS信号の使用可否情報等を送信して、測位の精度の高精度化や高信頼化を図ること。